

コーネル大学図書館

『ジョン・M・エコルズ東南アジアコレクション』の収集

グレゴリー・H・グリーン

ジョン・M・エコルズ東南アジアコレクション（以下、エコルズ・コレクション）は、この種のものでは世界でも有数のコレクションに数えられる。これは、

コレクションのために、最近ではどのように資料を収集しているか説明する。

●世界各国の東南アジア関連出版物の購入

エコルズ・コレクションには、東南アジアだけでなくその他諸地域の様々な発行元から出版物が集められる。身近なところからみていくと、米国内の出版物は主に当館の主要サプライヤーであるYBP（ベーカー&テイラー社の一部門）から届く。当図書館にはYBPと作成した収集プランがあり、各主題について私たちがどのような資料を求めているか記載されているので、YBPはそれをもとに図書を集めてくれる。東南アジアに関する資料で、学術出版社および非学術系大手出版社のものについては、ほぼすべてが自動的にこ

の経路で届いている。しかし、米国内の図書でも、東南アジア人コミュニティが発行する資料など、小規模の非学術系の発行元の図書については、YBPは通常収集しない。そのような出版物は必ずしも広く宣伝されていないため、私たちが独自に探して購入する必要がある。

米国以外では、欧州の東南アジア関連出版物については、いくつかの販売業者がYBPと似たような収集プランを当館に提供している。それらの収集プランはイギリス、ドイツ、フランスおよびイタリアをカバーしているが、それ以外の国でも、特に有名な学術出版社の刊行物を集めてくれる。収集プランには自動的に選択されるものもあれば、図書を選べるようにリストを提供するものもある。ここでもやはり、小規模な発行元は

外されることが多いので、私たち自身で探すか、あるいは支援者による情報提供に頼るしかない。

東南アジア以外のアジア地域の出版物については、当館のワソン東アジアコレクションおよび南アジアコレクションの担当者たちと連携して、それぞれの地域の出版物をピックアップしている。南アジアで出版された東南アジアに関する図書は、ほとんどが米国議会図書館共同収集プログラムのニューデリー事務所に委託した収集プランによって届けられる。このプログラムで収集されない図書については、我々が業者の目録でみつけれなくても、当館の南アジア資料キュレーターが情報をもたらししてくれる。日本および中国については、東南アジア関連図書を取り扱っている出版社から個別に取り寄せている。またその他に、ワソン東アジアコレクションのライブラリアンによってみつけれられたものを注文している。

●東南アジアの出版物の購入

東南アジア域内においては、収集資料のほとんどが、ジャカルタを拠点とする米国議会図書館共同収集プログラムを介して届けられ

る。このプログラムでは、当館の収集プランに従ってインドネシア、シンガポール、マレーシア、ビルマ（ミャンマー）およびブルネイから図書が自動的に集められる。タイおよびフィリピンについては、議会図書館から提供されるリストから図書を選択するとともに、補足的に図書販売業者を活用している。ベトナムでは、北部、中部、南部の販売業者三社から各地域の資料を取寄せている。ラオスおよびカンボジアにおいては、国内全体をカバーする業者それぞれ一社と提携している。

東南アジアの出版物は、販売業者が所在しているか、あるいは販売業者が図書購入にたびたび訪れるような主要都市では概して簡単に入手できる。我々が苦労しているのは、都市部から遠く離れた小さな町やコミュニティにおける資料収集である。このような地域の多くは、多少の図書を出版する程度の規模ではあるものの、販売業者が調達に向くには採算が合わない地域である。そのため我々は、定期的にそれらの地域に向向いていて、かつ資料を立て替え払いで購入してくれそうな個人の方々を常に探している。

●寄贈資料の受入れ

図書購入とは別に、エコルズ・コレクションには、東南アジアに関する世界的なコレクションを作り上げるという私たちの目標に共感した方々によって、惜しみなく資料を寄贈されてきた長い歴史がある。資料寄贈はどちらかといえば小規模なものがほとんどで、それぞれがおおむね図書一〜二冊程度であるが、当図書館がまだコレクションに加えていないことに気づいたものが寄贈される。一方、一生分の研究資料を何十もの資料保管箱に詰めて送ってくれる方もいる。また、昔東南アジアで働いていた親族から代々受け継いできた貴重な手稿文書を送ってくれる人もいる。寄贈資料の多寡や資料形態を問わず、これらの資料は熱く歓迎され、重要かつ貴重なエコルズ・コレクションの一部となっている。

長年にわたって、我々はコレクションのなかでも非常に価値の高い資料を寄贈図書として受け入れてきた。ここでの価値とは、研究における利用価値と金銭的な価値の両方を意味する。希少な手稿文書から、パンフレット、ポスター、選挙資料のような一時使用

の資料にいたるまで、東南アジア各地から限なく収集するのは、エコルズ・コレクションの予算では到底不可能である。また、ライブラリアンが全地域を十分にカバーできるほど頻繁に現地に向向くことも不可能である。しかし、エコルズ・コレクションに何らかの形で関わる研究者のネットワークは、遠い先まで展開していく。研究者それぞれが自らの研究のために資料を探し出すと、最終的にはそれがエコルズ・コレクションに回って来るのだ。このような寄贈なくして、エコルズ・コレクションの拡大はありえない。

エコルズ・コレクションがこのように寄贈を受け続けられる理由のひとつは、コーネル大学東南アジアプログラムからの寛大な支援により、資料整理を行うアルバイト学生への賃金を補助してもらっているからであ

る。当コレクションで働く多くの学生に支払う資金がなければ、素晴らしい寄贈資料をすべて断るわけにもいかず、かといって処理することも出来ず、私たちは資料箱に埋もれてしまうだろう。東南アジアプロジェクトをはじめ、携わる学生全員、そしてとりわけエコルズ・コレクションの構築に支援を続けるすべての寄贈者に、大変



①エコルズ・コレクションのあるクロック・ライブラリーの吹き抜け（筆者撮影）

感謝している次第である。

●ポーンデジタル情報の保存と収集

最近、我々は二つの新しいフォーマットの情報収集について検討している。ポーンデジタルの刊行物とウェブサイトである。ポーンデジタルの文書、たとえばNGOのサイト上にPDFで公開

され自由に閲覧できるものは、重要な情報源であることが少なくない。しかし、それらの情報は当該サイト上で将来にわたって確実にアーカイブされるとは限らない。また、オンラインによる地方紙などはやはりアーカイブするに値するものであるが、商業的な利害からむため、それには難しい交渉が必要になる。東南アジア地域に

で、ウェブサイトとポーンデジタル文書はともに我々の収集活動の中心になるであろう。これらの新たな媒体による刊行物の適切な収集プロセスを確立することがますます重要になっている。

●結び

以上のように、エコルズ・コレクションは、相当な時間と金銭的

している。このような資料はすぐには研究に役立たなくとも、他のどこにもないというだけで、いずれ価値のある研究資料となるだろう。こうしてエコルズ・コレクションは、東南アジア研究の分野において、ユニークかつ重要なものとなってきたのである。

(Gregory H. Green / エコルズ・コレクション・キュレーター)



②クロック・ライブラリーのセバリングハウス閲覧室（筆者撮影）

関する有益な情報を掲載するウェブサイトに、適切なソフトウェアがあれば、検索も保存も可能である。そのための作業にはかなりの費用と時間が必要となる。そこで、我々は将来的な用途も見据えたうえでこれらのウェブサイトを保存するべく、提携先や資金調達の可能性を検討している。こういった収集は容易ではないが、出版のオンライン化が進んでいるなか

投資を要するチーム作業によって形成されてきた。エコルズ・コレクションの蔵書構築方針は、他の東南アジアコレクションとは一線を画すと言っても過言ではない。我々は可能な限り守備範囲を広げるように努めているし、また比較的多くの予算を得ているので、購入する資料の量や範囲について他のコレクションほどの制限は強いられない。その結果、エコルズ・コレクションは他にはない資料を数多く所蔵



③オーリン・ライブラリー：クロック・ライブラリーにはここから入館する（WIKIMEDIA COMMONS 提供）